

新潟市地域と住まいの整備計画(新潟市地域住宅計画)

項目	委員の意見	評価監視委員会のご意見を踏まえた今後の対応方針
意見・要望	<p>空き家対策は都市計画とリンクする部分があり、居住選択は自由であるが、広域化するとインフラの維持の話もあるので、町をコンパクトにするなど、何らかの形で誘導していくことも必要だと思っていることから、都市計画との連動も図りながら空き家対策を進めていただきたい。</p>	<p>これまでも「空き家に関する庁内連絡調整会議」を設置し、庁内関係課と連携して空き家対策に取り組んできました。今後も都市計画のほか、さまざまな関連部署や関連団体などと連携を図りながら対策に取り組んでいきます。</p>
意見・要望	<p>地域提案型空き家活用事業は、主体が自治会やNPO法人など市民の側になることなので、事業に取り組む団体の自立支援も必要となってくる。</p>	<p>不動産の調査や取り扱いには専門的な知識が必要となることから、自治会が不動産等の専門家にアドバイザーを依頼する費用を補助対象とするなど円滑な事業実施のための支援を行っています。今後も不動産や建築などの関係団体と連携し、自治会等が安心して事業を実施できる体制づくりを進めていきます。</p>
指標	<p>指標には、実施した件数などアウトプットで評価するやり方と、結果としてどのような成果が生み出されたか、アウトカムによって評価するやり方があるが、実施した件数の指標だけでは、それが住生活の向上にどのように寄与したかという部分が表れにくいので、指標のあり方についてご検討いただきたい。</p>	<p>個別の事業については事業内容と密接に関連するアウトプット指標により評価したうえで、計画全体としての評価を行うため、住宅・住環境の総合的な満足度をアウトカム指標として設定しています。</p>
意見・要望	<p>空き家の活用については、例えば、地域の茶の間や子育て支援の場等に使われることで、地域における福祉の向上にも寄与している。これを定量的に評価するのは難しく、定性的な評価になってしまうが、事業効果として評価しても良いのではないか。</p>	<p>空き家は福祉や商業など様々な用途での活用方法があることから、活用される用途ごとに評価することは難しいと考えています。空き家がさまざまな用途で活用されることで、空き家の解消につながるとともに、結果として住環境の総合的な満足度に繋がっていくという観点から、活用件数のアウトプット指標と住環境の総合的な満足度のアウトカム指標により事業効果を評価していきたいと考えています。</p>
意見・要望	<p>住環境の善し悪しは、家の中だけではなく、地域、周辺も含まれる。住宅の整備にとどまらず、市営住宅の周りにたくさん緑があると、質の高いものにしていくことが必要ではないか。計画期間は5年だが、長期的な視点でまちづくりを見据えていただいて、計画をたてていただきたい。</p>	<p>本整備計画は、関連計画であるにいがた住まい環境基本計画およびその上位計画であるにいがた未来ビジョン(新潟市総合計画)に基づき、作成しています。今後もこれらの計画との整合を図りながら、中長期的な視点で計画立案を行います。</p>